

報告

令和元年度 活動報告・令和2年度 活動計画

【令和元年度】

引き続き地活におけるデイケア事業の基礎的事業、機能強化事業、就労支援などに積極的に取り組んだ。令和元年度における一日平均利用者は、13.1名。利用登録者は70名(市内39名、市外31名)である。

・授産事業である点字名刺作業者は8名で、年間568件で、受注のデータベース化を行った。

「こころのアート展」(12/7 レイクタウン)に木工、ゆかたの花を出品した。

・相談支援事業所の相談契約者は99名と大幅に増加した。(計画書作成90件、モニタリング196件)

また、事務効率化に努め、就労支援フォーラムにも引き続き参加した。

・広報活動としては、ホームページによる情報発信をタイムリーに行った。

ひかりの森レター1,000部、リーフレット500部発行した。

・啓発活動として、「ひかりの森フェア」を継続開催した。(9/6,7 96名参加)

施設外の「フレンズデイ」を継続実施。「かふえとも」に参加。

埼玉県視覚障害支援ネット「彩のひとみ」研修会に参加した。(DVDあるつく150本寄付)

DVD「あるつく」は、継続的に普及に取り組んだ。県立大など研修受け入れを行った。

社協ガイドヘルパー「ステップアップ研修」に出講した。(1/24、第2回は中止)

ひかりの森セミナーは、新型コロナウイルスの影響で中止した。

・調査・研究活動として、バリアフリー研究会活動の情報交流会を開催し、越谷市関係課、警察、東武鉄道他参加した。

(11/20)

・その他

NPOの将来事業の充実に向け職員の新規採用を行うとともに、事業効率化のためのデータベース化を進め、会計事務ソフトを導入した。

ひかりの森会員は30名、賛助会員は80名の実勢である。

新規事業は、立地を含めて検討継続中である。

【令和2年度】

1. NPO活動に係る事業

①デイケア事業／基礎的事業、機能強化事業、就労支援に継続的に取り組み、利用者の増加を図る。

②啓発活動／ひかりの森フェア、フレンズデイ、他団体との協働活動 他の内容を検証し、啓発活動を継続する。

③調査・研究活動／バリアフリー研究会を継続してゆく。

④相談支援事業所／相談体制の改善に努める。

2. その他の事業

授産事業／データベースを活用した受注の安定化を図るとともに、作業者の技能向上に努める。

3. 運営関連

①広報活動／ホームページ、ひかりの森レターの継続と内容充実に努める

②管理業務等／職員研修、業務改善に継続的に取り組む。

③その他／新規事業(就労継続支援b型、他)は、行政とも相談しながら継続して対応する。

以上

■理事の退任に当たり 中島 泉

中島はひかりの森の設立時より理事として係わってまいりました。

デイケア施設の設立、その後のNPO法人視覚障がい者支援協会設立等携わって、あっという間に十数年が過ぎました。これから視覚障がい者にどんなサービスが必要か、地域活動支援センターだけでは、もう、限界のようです。NPO法人では、相談事業、授産事業など、これからの事業拡大してゆくにあたり、新しい当事者の理事さんにバトンタッチをして今後の運営をお願いしたいと思いました。障がい者に理解を示して、なおかつ今後の障がい者の自立についても、理解を示してくれる人材として視覚障がいであられる村上さんを新しい理事として推薦致しました。視野を広く持たれた方なので、どうぞ宜しくお願いいたします。

■新理事 村上政隆

私がひかりの森の会員になったのは2017年8月です。その年の4月に突然全盲となり、暗中模索の中、偶然ラジオ放送でこの存在を知りました。

そして、ひかりの森へ通い、視覚障がい者に特化した活動にチャレンジして来ました。また、障がい者支援の社会的な制度などの情報も折につけ耳にし、先行きが見通せない不安が少しずつ晴れていったことを覚えています。ひかりの森へいつも通っていると、この場所があることが当たり前のように思えます。しかし、このような場所は全国でも稀な存在です。

今、私は思います。社会に必要な組織を継続するための「組織における自助・共助・公助」についてです。「公助」は言わずもがなですが、「共助」とは、ひかりの森の会員においては、それぞれが日々の活動に参加することでしょう。そして、「自助」とは、ひかりの森の活動を広く社会に発信すること。これこそが最も大切な事でしょう。私は、それを推進したいと思います。